

島根大学医学部小児病棟の“わくわくルーム”が完成しました。

このたび島根大学医学部の小児病棟が改修され、さまざまな年代の子どもたちのためのプレイルームや付き添いの家族が落ち着いて食事をとれる食堂、さまざまな用途に使える多目的室などを備えた国内最大級のプレイルーム“わくわくルーム”が完成し、8月1日（木）にオープニングセレモニーが行われました。

この“わくわくルーム”には「AYAルーム」というスペースがあります。思春期から若年成年世代の若者を中心に、落ち着いて読書に親しんだり、ゲームを楽しんだり、学習したりできる空間で、他の施設ではあまり例を見ない大きな特徴と言えます。

この“わくわくルーム”整備にあたっては、島根県がん対策募金のうち「小児がん対策募金」380万円余が、おもちゃ、図書、絵本などの購入にあてられました。

「小児がん対策募金」は、松江連合青果様の発案により、バナナの輸入会社や県内の青果市場、小売店の協力を得て、「バナナ募金」という愛称で、平成28年から30年にかけてお取り組みいただいたものが原資となっています。

当財団では、今後も小児がん対策をはじめ、がん対策募金の有効活用につとめてまいります。



(写真上) 子どもたちのテープカットによりプレイルームがオープン

(写真左下) プレイルームで遊ぶ子供たち

(写真右下) AYAルームであいさつする当財団の広沢理事長